諏訪市埋蔵文化財調査報告第34集

ジャコッパラ Ⅵ

――平成７年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報――

（諏訪市霧ケ峰ジャコッパラ遺跡群遺跡分布予備調査４）

１９９６．３

諏訪市教育委員会

諏訪市埋蔵文化財調査報告第34集

ジャコッパラ Ⅵ

——平成７年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報——

（諏訪市霧ケ峰ジャコッパラ遺跡群遺跡分布予備調査４）

１９９６．３

諏訪市教育委員会

JAKOPPARA vol. VI

AN ARCHAEOLOGAL SURVEY
ON JAKOPPARA SITES AT KIRIGAMINE,
NAGANO-PRIFECTURE, JAPAN

1996. 3

THE BOARD OF EDUCATION
OF SUWA CITY

例　　言

1．本書は、長野県諏訪市霧ヶ峰南麓地域の平成７年度遺跡分布予備調査概要報告書である。
本分布予備調査は平成７年度国庫・県費補助事業市内遺跡発掘調査事業の一部として行なわれたものである。また、長野県黒耀石原産地遺跡分布調査（諏訪市）を兼ねている。

2．本調査は、諏訪市教育委員会が調査主体者となり、諏訪市教育委員会の編成するジャコッパラ遺跡群調査団が調査を担当した。

3．現場における発掘調査は平成７年５月30日から８月９日まで実施した。報告書作成作業は平成７年１月から平成８年３月まで、諏訪市社会教育センターにおいて行なった。

4．本文中の水糸レベルは標高の絶対値で示した。

5．現場における記録と整理作業の分担は次のとおりである。
遺構等実測・・・・青木正洋・田中　総・小松とよみ・関喜子・原敏江・矢崎つな子
・小林若海・中島透
遺物水洗・注記作業・・・・小松・関・原・矢崎・小林
遺物実測及びトレース・・・・田中
図面写真整理・遺構トレース・・・・五味・青木・田中・矢崎・小松厚子

6．編集・執筆は事務局及び田中・五味が行なった。

7．各試掘グリッドの平面及び土層断面図中の遺物はドットで示した。

8．各試掘グリッドの土層断面図の方位は図中に示した。

9．調査の諸記録は、諏訪市教育委員会で保管している。

10．発掘調査及び報告書作成に際し、調査・整理参加者の他に下記の方々はじめ多くの方々に御指導・御教示を得た。記して感謝申し上げる。（順不同・敬称略）

上桑原牧野農業共同組合・上桑原共有地組合・大建工業株式会社・渋崎建設株式会社
・長野県教育委員会文化課・黒耀石原産地遺跡調査指導委員会・小松　学

目　　次

例　言

目　次

Ⅰ　調査に至る経過

1．霧ヶ峰遺跡分布予備調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2．過去における調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

3．平成７年度調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

4．調査組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

5．調査日誌（抄）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅱ　位置と環境

1．ジャコッパラ遺跡群を取りまく環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

2．ジャコッパラ遺跡群と周辺遺跡群の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

Ⅲ　平成７年度遺跡分布予備調査の概要と成果

1．平成７年度調査区の概要と基本土層について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

2．各試掘グリッドの遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

Ⅳ　調査のまとめ

1．検出された遺構・遺物及び遺跡立地について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

写真図版

Ⅰ　調査に至る経過

1．霧ヶ峰遺跡分布予備調査の経過

霧ヶ峰高原周辺からは、火山性ガラスである黒耀石が多く産出される。和田峠周辺等の黒耀石露頭などから採取された黒耀石は、旧石器時代から縄文時代にかけて、広く関東・東海地方へ石器材料として運びだされ、利用されたことが分かっている。また、黒耀石原産地の地元である諏訪地方各地でも、黒耀石製の石器類を多量に出土する遺跡が多く発見されており、これらの遺跡は、山麓部から諏訪湖盆にかけていくつかの遺跡群を構成している。しかし、これまで黒耀石露頭付近及びこれらをとりまく山麓部については、現況が山林・草原である事から、遺跡分布を把握することが困難であった。

このような状況をふまえ、長野県教育委員会及び関係各市町村により「長野県黒耀石原産地遺跡分布調査」が計画され、各市町村による分布調査が進められる事となった。

諏訪市では、霧ヶ峰南麓一帯を覆うような形で大規模な開発計画がもちあがっており、遺跡の保護措置を協議するためにも、山麓部における遺跡の分布状況をなるべくすみやかに把握する必要があったため、文化庁及び長野県教育委員会の指導のもと、平成３年度から調査を開始した。調査予定区域内は、ほとんどが草原か林地であり、表面採集による遺跡分布の確認は不可能であったため、試掘を伴う調査を行うこととした。試掘坑は、地図及び現地踏査による地形読取から地点を選定し、掘り下げを行った。

2．過去における調査

ジャコッパラ遺跡群に関するこれまでの調査の概要については、平成４～６年度の分布予備調査概報にも略述されている。過去の表面採集による分布調査では、蛇行原遺跡及び蛇行原上遺跡（現ジャコッパラNo.１遺跡）と、霧ヶ峰農場遺跡が周知されており、また、北側に隣接する、国の天然記念物である踊場湿原周辺には池のくるみＡ～Ｄ遺跡が知られていた。

昭和62年に創価学会研修道場建設に先立つ緊急発掘調査が行われ、新たに陥し穴状遺構14基が検出された。また、旧石器が発見されたことにより、この遺跡の営まれた時代幅が大きく拡がることが明らかになった。この調査の結果、遺構・遺物の出土状況や周辺地形を勘案した上で、従来「蛇行原遺跡」及び「蛇行原上遺跡」として登録されていた範囲を含む部分が、「ジャコッパラ遺跡」として統一されることとなった。

平成３年度からは遺跡分布予備調査が開始され、平成６年度までの調査で、新たに14ヶ所の遺跡が発見された。これらは相互に有機的な関連を有し、全体的に一つの遺跡群として捉えることができるため、「ジャコッパラ遺跡群」として位置付けを行い、「ジャコッパラ遺跡」を「ジャコッパラNo.１遺跡」としたほか、その後新発見された各遺跡についても「ジャコッパラNo.○遺跡」という名称を用いることにした。平成３年度～６年度の分布予備調査では、ジャコッパラNo.２～No.14遺跡が発見されている。

これらの遺跡は旧石器時代から縄文時代にわたる遺跡であり、ジャコッパラNo.８遺跡・No.１２遺跡の

ようなかなり規模の大きい旧石器時代の石器製作址や、ジャコッパラ№6遺跡のように縄文時代の陥し穴群が構築された狩猟場の他に、一時的なキャンプ地と考えられる比較的小規模な遺跡など、様々な性格の遺跡がこの付近に分布していることが分かった。また、旧石器時代に関して、これまで諏訪地方で明確ではなかった、ローム層中の複数の文化層を層位的に区分できる可能性が高くなってきた。ジャコッパラ№8遺跡などでは、同一地点内での出土層位の異なる複数の石器群の存在が明らかになっている。

昨年度は56ヶ所の試掘坑を設け、6ヶ所において遺構・遺物が検出された。これらは地形的におおよそ2つの範囲にまとめることができる。1ヶ所はD地区尾根の最南端部分の独立丘状になっている地形を中心とする区域で、尾根の頂部へと続く鞍部と独立丘の頂部、そしてその南側の尾根末端部を含む。旧石器時代の石器制作社・縄文時代の陥し穴状遺構と集石が検出された。もう1ヶ所は、やや北側のやはり独立丘状となった地形の周辺で、鞍部から縄文時代の黒曜石製石鏃が発見されている。特に尾根先端部から検出された集石遺構は火を使用した場所の痕跡である可能性が高く、ジャコッパラ遺跡群内では数少ない縄文時代の「生活址」であるとともに、当時の狩猟活動に関係する遺構であることも考えられ、注目される。

3．平成7年度調査の概要

本年度の調査区は2ヶ所に分かれ、1ヶ所は池のくるみ遺跡直下周辺（KRB・D地区）であり、もう1ヶ所はジャコッパラ№1遺跡（KRC地区）の隣地にあたるKRD地区の尾根上である。前者は平成5年度に調査を行なった地点の付近にあたり、ここでは市道を挟んだKRB地区でジャコッパラ№12遺跡を新に発見した。また、檜沢川の源流で、池のくるみD遺跡に隣接するKRD地区では、弥生時代後期に属する土器片が出土し、池のくるみD遺跡の範囲を広げる成果を得ることが出来た。そして、今回は、平成4年に道路造成に先立つ緊急調査を行ない、陥し穴状遺構を発見したKRB地区のジャコッパラ№6遺跡の一部において範囲確認のための試掘を行なうこととなった。

KRB・D地区一帯では広範囲に及ぶような遺構及び遺物分布地点（遺跡）を発見することが出来ず、顕著な土地利用が乏しい状況が想定されていた。

このような状況で、本年度では平成5年度のKRB・D地区調査範囲の南側山林一帯で調査を行なった。調査の結果、ここでは檜沢川に向かって突出した平坦な台地上の黒色腐植土層の下部に小形の黒曜石原石の分布が認められた。これらは時期不詳であったが、ある程度の範囲に分布が限られていたため、これをジャコッパラ№15・16遺跡として、新に登録した。

また、もう一ヶ所のKRD地区は、南北に延びる尾根状地形が調査対象範囲であるが、この周辺は比較的幅が広い斜面が続き、ほとんどが山林の中であったため見通しが悪く、試掘坑の設定や分布図の作成等についてはかなり困難な状況であった。それでも、調査の結果、ジャコッパラ№1遺跡に隣接する尾根上に縄文時代に属するとみられる陥し穴状遺構を1基発見した。

調査方法は、地形図からの地形読み取りによって試掘坑の設定地点を決定し、各試掘坑とも2m×2mを基本に、状況に応じて1m×2m、1m×3mの試掘坑も設定した。掘り下げはすべて手掘りで行った。遺構及び土層堆積状況確認のため、ローム上面から数10cmの深さまで掘り下げることを原則としたが、遺物等の検出状況や、地山の状況に合わせて随時変更した。

各試掘坑では土層堆積状況の記録等を行い、最後にタキオメーターによって位置を地図上におとした。また、数ヶ所については分析資料取得のため土壌サンプリングを行った。

なお、本年度の調査ではグリッド番号を３ケタでナンバリングしてあるが、３ケタ目の“７”は平成７年度を表わしたものであり、過去の調査のグリッドと共に、最終的に番号をつけ直す予定である。

補助事業決定の経過（抄）

平成７年６月21日付け７教社第75号

平成７年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書　市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成７年６月28日付け７教社第85号

平成７年度文化財補助金交付申請書　市内遺跡発掘調査事業（県費）

平成７年７月28日付け委保第71号

平成７年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知　市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成７年９月27日付け長野県教育委員会教育長指令７教文第２－16号

平成７年度文化財補助金交付決定通知　市内遺跡発掘調査事業（県費）

４．調査組織

ジャコッパラ遺跡群調査団（平成７年度）

団　長	吉田　守	（諏訪市教育委員会　教育長）
副団長	笠原　修	（諏訪市教育委員会　教育次長）
調査担当	青木正洋	（諏訪市教育委員会学芸員）
調査員	田中　総	（諏訪市教育委員会学芸員）
調査団員	（一般）小松とよみ・関　喜子・原　敏江・矢崎つな子・小林若海・関　仁美 ・増沢清久・宮坂　毅・宮坂茂子・石田恒富・矢崎策郎・古畑　貞 ・牛山　宏・村山昭一	
	（大学生）中島　透	
（事務局）		
事務主幹	宮野孝樹	（諏訪市教育委員会　社会教育課長）
事務局長	藤森憲吉	（諏訪市教育委員会　社会教育係長）
事務局員	五味裕史・青木正洋・亀割香奈子・田中　総 （諏訪市教育委員会　社会教育係）	

５．調査日誌（抄）

５月30日　晴れ　平成７年度ＫＲＢ地区の調査開始。現地に機材搬入。701～704グリッドを設定し、掘り下げを行なう。

５月31日　晴れ　705～707グリッド設定。調査。

6月1日　晴れ　708・709グリッド設定。調査。

6月2日　晴れ　710～719グリッド設定。調査。

6月5日　晴れ　720グリッド設定。調査。

6月6日　晴れ　707グリッドの深堀を行なう。

6月7日　晴れ　721・722グリッド設定。調査。

6月8日　曇り　707グリッドで土壌サンプル採取。午後よりＫＲＤ地区の調査に移る。723～741グリッド設定。調査。

6月12日　曇り　723グリッドの黒色土下部より黒耀石原石数点出土。724グリッド設定。調査。

6月14日　曇り後雨　725グリッド設定。調査。

6月15日　曇り時々雨　724グリッドより黒耀石原石出土。

6月16日　晴れ　742・746グリッド設定。調査。725グリッドより黒耀石数点出土

6月19日　晴れ　739グリッドより黒耀石原石出土。

6月21日　晴れ　747・749グリッド設定。調査。745グリッドより黒耀石原石出土。

6月22日　晴れ　748グリッドから黒耀石原石・砕片出土。

6月27日　晴れ　ＫＲＤ地区の調査済グリッドの一部の埋戻しを行なう。ジャコッパラNo.6遺跡付近のＫＲＢ地区の調査に移る。

6月28日　晴れ　750～757グリッド設定。調査を開始する。750グリッドの黒色土中より黒耀石製石核出土。ジャコッパラNo.6遺跡の広がりを確認する。

6月29日　晴れ　758～761グリッド設定。調査

6月30日　晴れ　762・763グリッド設定。調査

7月10日　晴れ　764・765グリッド設定。調査

7月18日　曇り　ジャコッパラNo.6遺跡の周辺で分布調査を行なう。陥し穴状遺構1基確認。

7月19日　曇り　ＫＲＢ地区調査継続。黒耀石原石・砕片の分布を確認。ＫＲＤ地区の黒耀石原石類の分布を確認した箇所において分布範囲の確認調査を行なう（26日まで）。

7月27日　晴れ　ＫＲＤ地区の尾根上の調査を開始する。766～771グリッドを設定し、掘り下げを開始する。769グリッドより黒耀石製剥片出土。

7月28日　晴れ　766～771グリッドの掘り下げを継続する。772～774グリッド設定。

7月31日　晴れ　775～779グリッド設定。

8月1日　晴れ　774～778グリッドの掘り下げを開始する。

8月2日　晴れ　780グリッド設定。770グリッドより調査終了したグリッドの埋め戻しを順次行なう。

8月3日　晴れ　ＫＲＤ地区のジャコッパラNo.1遺跡に隣接する尾根上に781～784グリッドを設定し、調査を開始する。

8月4日　晴れ　781～784グリッドの掘り下げを行なう。783グリッドで陥し穴状遺構1基検出。ジャコッパラNo.1遺跡の陥し穴群に関連すると思われる。

8月7日　晴れ　785～787グリッドを設定し、掘り下げを行なう。

8月8日　晴れ　783グリッドの陥し穴状遺構完掘。その他グリッドの調査も終了。

8月9日　晴れ　調査グリッドの埋め戻しを行ない本年度調査を終了する。

Ⅱ　位置と環境

1　ジャコッパラ遺跡群をとりまく環境

霧ヶ峰は、標高1925mの車山から噴出した溶岩が、南方へ緩やかに傾斜した火山体（盾状火山）により形成される。標高1400～1700mにある草原地帯には、八島ヶ原、車山、踊場の三つの高層湿原が展開し、それらの湿原は国の天然記念物に指定されている。このように草原と湿原からなる霧ヶ峰も、昭和の前半には、標高1400m以下まで、牧場や牧草地、植林地として入植され、現在は森林地帯となっている。通称ジャコッパラ（蛇行原）と呼ばれる付近でも、このような土地利用が頻繁になされていた。

ジャコッパラ遺跡群は、霧ヶ峰南麓の標高約1300m～1580mの山間部に位置している。諏訪盆地の平坦部とは標高差が約500m以上で、気温も年間を通じて8℃ほどの差がある。従って、旧石器時代の最も寒い時期にはかなり厳しい環境下にあったと考えられる。ただし、時代によってかなり気候の変動があったことがわかっており、昭和62年に行なわれたジャコッパラ№1遺跡の調査では、約五千数百年前の縄文時代前期後半頃の陥し穴状遺構の中からススキ・ヨシの他にコナラ・クリ等やケンポナシなどの落葉広葉樹の植物遺体が見つかっている。

ジャコッパラ遺跡群付近の地形は、溶岩台地とそれを南北に区切る谷によって幾つかのまとまりに分割することが可能であり、調査にあたっては谷などを境界としてA～E地区を設定した。それぞれの尾根は階段状に延びており、尾根筋の所々に独立丘状の小ピークが認められる。

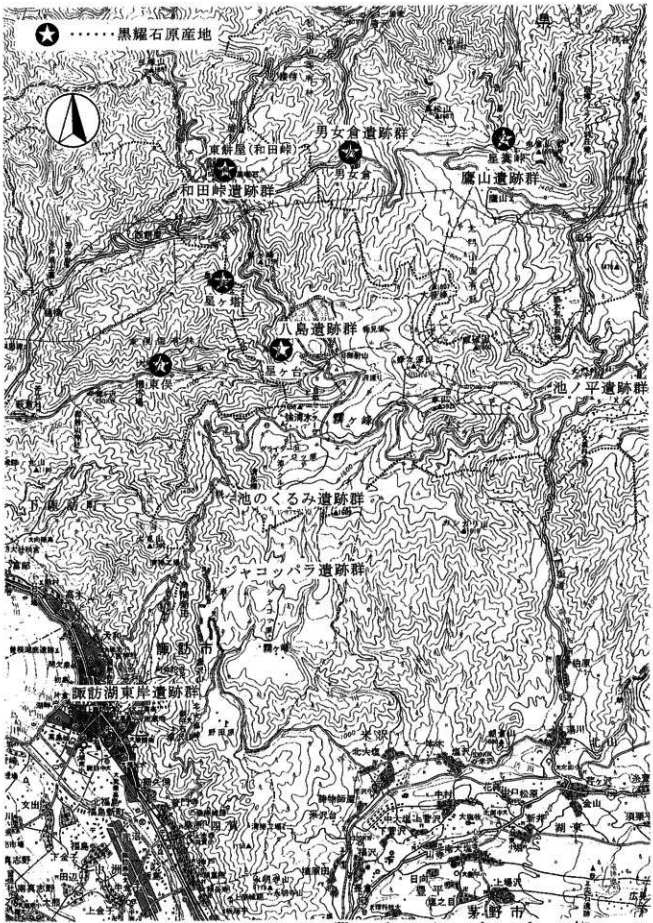
なお、これまで霧ヶ峰南麓には数ヶ所の湿地が存在することがわかっている。

2　ジャコッパラ遺跡群と周辺遺跡群の概要

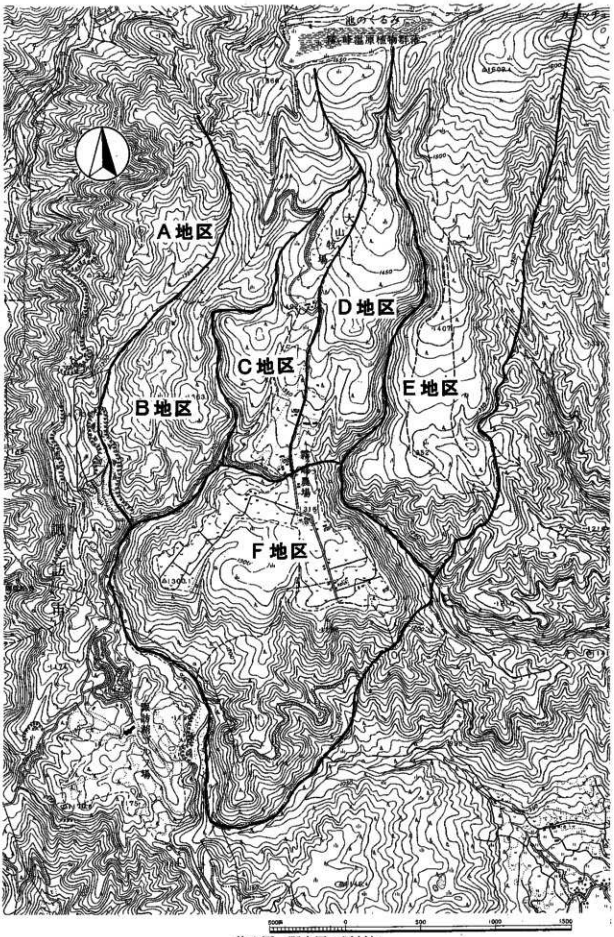
旧石器時代　霧ヶ峰の周辺では、火山活動の産物である黒耀石の産出地点が、多く見つかっている（第1図）。中でも和田峠周辺、鷲ヶ峰の星ヶ塔付近では、良質の黒耀石が採取できることが知られている。こうした黒耀石原産地の周辺では、後期旧石器時代を通じて、石器製作および居住のなされた遺跡が、数多く見つかっている。

これらの遺跡は、旧石器時代の遺跡としては格段に規模が大きく、黒耀石製石器類を多量に生産した跡として遺されている。また、遺跡は原産地直下に群在しており、このようなまとまりは遺跡群として、既にいくつかが知られている（第2図）。

諏訪市域においては、星ヶ台そばの八島遺跡群を除いて、黒耀石原産地直下に形成された遺跡群はなく、踊場湿原（池のくるみ）を取り囲むようにして分布する池のくるみ遺跡群や、霧ヶ峰の高原に、点々と遺跡を形成する今回の調査対象となるジャコッパラ遺跡群は、黒耀石の産出地点より、やや距離をおいて分布する遺跡群である。また、霧ヶ峰西麓となる諏訪湖東岸付近では、諏訪湖を臨んで立地する茶臼山遺跡や上ノ平遺跡、北踊場遺跡など学史上重要な遺跡で構成される諏訪湖東岸遺跡群があり、この場合は、原産地から10km近くも離れることとなる。



第1図　ジャコッパラ遺跡群と周辺の旧石器時代遺跡群



第2図　調査区の区割り

スクリーントーン部分は平成７年度調査範囲

第３図　平成７年度調査範囲と周辺の遺跡

地区	番号	遺跡名	所属時期	市内番号	調査歴
地区外	1	細久保遺跡	縄文早・前期, 弥生中期	409	昭和25・26年一部発掘調査
C・D	2	霧ヶ峰農場遺跡	旧石器, 縄文前期, 中世	411	昭和54年、遺物採集により発見
調査地区外	3	池のくるみA遺跡	旧石器, 縄文早・前・中期, 平安	412	
	4	池のくるみB遺跡	旧石器, 縄文早期	413	
	5	池のくるみC遺跡	旧石器, 縄文早期	414	昭和42年、一部発掘調査
	6	池のくるみD遺跡	旧石器, 縄文早・前期, 平安	415	
C	7	ジャコッパラNo.1遺跡	旧石器, 縄文前期？(陥し穴)	418	昭和62年、一部発掘調査
B	8	ジャコッパラNo.2遺跡	旧石器	431	平成元年、遺物採集により発見
B	9	ジャコッパラNo.3遺跡	旧石器, 縄文？	432	平成3年、分布調査により発見
B	10	ジャコッパラNo.4遺跡	旧石器, 縄文早期(陥し穴)	433	平成3年、分布調査により発見
B	11	ジャコッパラNo.5遺跡	旧石器	434	平成3年、分布調査により発見
B	12	ジャコッパラNo.6遺跡	旧石器, 縄文？(陥し穴)	435	平成4年、分布調査により発見
D	13	ジャコッパラNo.7遺跡	縄文？	436	平成4年、分布調査により発見
D	14	ジャコッパラNo.8遺跡	旧石器, 縄文？(陥し穴)	437	平成4年、一部発掘調査
C	15	ジャコッパラNo.9遺跡	縄文早期	438	平成4年、分布調査により発見
C	16	ジャコッパラNo.10遺跡	縄文早・中期	439	平成4年、分布調査により発見
C	17	ジャコッパラNo.11遺跡	縄文早期(陥し穴)	440	平成4年、分布調査により発見
B	18	ジャコッパラNo.12遺跡	旧石器, 縄文	441	平成5年、一部発掘調査
D	19	ジャコッパラNo.13遺跡	縄文	442	平成6年、分布調査により発見
D	20	ジャコッパラNo.14遺跡	旧石器・縄文(陥し穴)	443	平成6年、分布調査により発見
D	21	ジャコッパラNo.15遺跡	縄文	444	平成7年、一部発掘調査
D	22	ジャコッパラNo.16遺跡	縄文？	445	平成7年、分布調査により発見

(『諏訪市の遺跡』等をもとに作成)

第1表　周辺遺跡一覧表

これらの遺跡群の分布状況は、黒耀石原産地の多様な姿を反映したものであり、その立地条件は、遺跡（群）の構造を理解する上において無視できないであろう。

霧ヶ峰の遺跡群の年代については、今のところ十分、そのデータが整備されている状況ではないが、約22000年前のＡＴ降灰以前から形成されていたとみられる遺跡が存在する。例えば台形様石器やナイフ形石器を主体とする池のくるみ遺跡Ｃ地点は、その特徴から立川ロームのⅥ層相当の古さが考えられている。また、近年に調査されたジャコッパラ№８遺跡やジャコッパラ№12遺跡の一部も、これに準ずる古さを持つ石器群と考えられる。

これらに後続する遺跡（群）には、雪不知遺跡や物見岩遺跡、そして八島遺跡などを含めた八島遺跡群が相当する。これらの遺跡からはナイフ形石器や槍先形尖頭器を主体とする石器群が見つかっている。特に八島遺跡では、これら遺跡群の中でも石器生産量が増加している。男女倉遺跡群や鷹山遺跡群でも同じ内容の遺跡があり、黒耀石原産地において尖頭器を生産する当該期の遺跡の特徴をあらわしている。

霧ヶ峰の遺跡群では、湿地のまわりに遺跡が点在して構成されるものが多く、この傾向は、鷹山遺跡群やもと湿地であった白樺湖にある池の平遺跡群にも共通する特徴であることが注意されている。遺跡（群）の占地条件に、水場の有無が大きく関わっていたことを暗示するものとして捉えることが出来るが、こうした湿地が山間部から平地に流れ出す小河川の源流にあたることも、この地に人間が集い、生活場所を設けた背景の一つであったとも考えられる。

縄文時代　縄文時代における霧ヶ峰一帯は、土地の利用が、キャンプ地や狩猟場に限定されるようである。その証拠として、狩猟場の跡地と思われる沢沿いの緩斜面からは、陥し穴状遺構が発見されている。ジャコッパラ遺跡群では、ジャコッパラ№１・№６・№８の各遺跡から数基単位で陥し穴状遺構が発見され、中でも広範囲にわたる発掘調査を実施したジャコッパラ№１遺跡では、14基の陥し穴状遺構が一定の配列を保って分布することが判明し、組織的な陥し穴猟の存在を裏付ける成果を得た。今後、分布調査の進展によっては、さらに多く検出されると予想できる狩猟場の形態の一つである。

この陥し穴猟の開始時期は定かではないが、ジャコッパラ遺跡群では縄文前期頃には行なわれていたらしいことが、ジャコッパラ№１遺跡の陥し穴状遺構から見つかった炭化物の年代測定によって確認されている。

霧ヶ峰高原における黒耀石原産地としての縄文時代遺跡の分布状況は、旧石器時代に比べ顕著ではない。そのかわり、黒耀石原産地で直接採取を行なった痕跡として“採掘”跡が星ヶ塔をはじめとして見つかっている。かつて鳥居龍蔵氏が『諏訪史』の中で、星ヶ塔の黒耀石の産状を吟味し、そこに分布する窪みの跡を作業場または露営の跡と解釈したことで、縄文時代の黒耀石採取の組織化を予見したことはよく知られている。そして、1958年、藤森栄一氏、中村竜夫氏により行なわれた星ヶ塔の調査では、切り通しに露呈した黒耀石採掘坑が発見され、調査の結果、窪みが黒耀石の採掘跡であることが確認された。最近では、長門町星糞峠付近での黒耀石採掘坑の存在が知られたのをはじめ、下諏訪町東俣からも黒耀石採掘跡とみられる遺構が発見されている。

この盛んに行なわれた黒耀石採取の状況を反映した遺跡は、ジャコッパラ遺跡群内では見つかってはいない。しかし、角間川沿いの縄文時代遺跡に多量の黒耀石が集積された状況がうかがえることから、原産地から直接、ここまで運び込まれていたものと思われる。

Ⅲ　平成７年度遺跡分布予備調査の概要と成果

１．平成７年度調査区の概要と基本土層について

本年度の霧ヶ峰ジャコッパラ付近における調査対象範囲は、ＫＲＢ・ＫＲＤ地区が中心となり、その範囲は踊場湿原（池のくるみ）直下より南北約２km、東西約800mが相当する。広範な調査範囲であるが、これらの中には昨年来、すでに調査終了している範囲も含まれており、本年度はその調査が行なわれていない範囲を中心として調査を計画し、実施した。

ジャコッパラ付近一帯で分布予備調査を行なうにあたって、東西約３km、南北約５kmの範囲を、河川または谷の開析によって分岐される尾根筋及び台地ごとに地区割りを行ない、第２図のようにＡ～Ｆまでの地区を設定した。

現在までに分布調査が及んでいるのは、Ｂ～Ｄ地区の一部で、今後これらの残りの部分とＡ・Ｅ・Ｆ地区に調査を展開する予定である。したがって、現在までに判明している遺跡の多くは、第３図のようにすでに調査の行なわれた地区に集中する結果となる。しかし、平坦な尾根や台地が主になるＤ～Ｆ地区では、今後の調査の進行により新たに遺跡が発見される可能性がある。

第３図に示したとおり、本年度の調査範囲はＫＲＢ・Ｄ地区において、便宜的に大きく①～⑤の５つの範囲に分けることができる。また、番号は調査を進めていった順番で付けてある。以下、これらの調査範囲ごとに調査の概要を述べることとする。

調査範囲①はＫＲＢ地区に属し、南に張り出した尾根状地形が相当する。南西側には急峻な斜面が形成され、西側は北方より開析する谷により調査範囲②③の尾根と区切られている。なお、この西側の谷の谷頭には平成５年度に発見・調査した旧石器時代のジャコッパラ№12遺跡がある。この調査範囲では701～722の計22ヶ所の試掘グリッドを設定し、調査を行なった（第４図）。

調査範囲②はＫＲＤ地区に属し、踊場湿原南側の小丘陵から南に広がる、なだらかな傾斜を持つ平坦部が主要な範囲となる。西側には南へ開析する谷がみられ、東側は踊場湿原より流れ出す檜沢川の沢によりＫＲＥ地区の尾根と寸断されている。この平坦部は霧ヶ峰農場のある南方に延びており、霧ヶ峰高原の主要な尾根の基部にあたる。この尾根上にはジャコッパラ№８遺跡、ジャコッパラ№１遺跡など旧石器～縄文時代の遺跡がいくつか見つかっている。なお、この調査範囲②の北側、すなわち踊場湿原南丘陵の裾部については平成５年度に分布調査を行なっているが、池のくるみＤ遺跡の範囲の広がりを確認したのみで、新たな遺跡は見つかっていない。この調査範囲では723～749の計27ヶ所の試掘グリッドを設定し、調査を行なった（第４図）。

調査範囲③はＫＲＢ地区に属し、南東方向に延びる尾根上が対象範囲となる。この尾根では西側に深い谷が開析し、また調査範囲の中央付近にも幅の広い谷が入り込む。この谷については同じジャコッパラ№６遺跡の陥し穴群が構築される斜面地を形成する谷部である。今回の調査では、このジャコッパラ№６遺跡の範囲確認調査も兼ねており、地形を勘案したうえで750～765の計16ヶ所の試掘グリッドを設定し、調査を行なった（第４図）。

調査範囲④はＫＲＤ地区に属し、調査範囲⑤の下方に位置する南西方向に延びる尾根である。その隣には市道が沿い、南端には霧ヶ峰農場がある。基本的にＫＲＤ地区の上端より続く主要な尾根の一部であるが、南西および南東に谷が入り込み、痩せ尾根状を呈している。この調査範囲の東側の尾根は昨年度調査を行なっており、ジャコッパラ№13・№14遺跡が発見されている。今回は766～780の計15ヶ所の試掘グリッドを設定し、調査を行なった（第５図）。

調査範囲⑤はＫＲＤ地区に属する。調査範囲　の上方にあたり、規模の小さな尾根地形を呈している。東側にはＫＲＤ地区の支尾根が延び、この尾根とは斜面により区切られている。また、西側にある小尾根は多数の陥し穴状遺構の検出されたジャコッパラ№１遺跡が隣接してある。ここでの調査はジャコッパラ№１遺跡の陥し穴群との関連を考慮しつつ、781～787の計７ヶ所の試掘グリッドを設定し、調査を行なった（第５図）。

調査の結果、調査範囲①では遺構・遺物は全く発見されず、新たな遺跡の確認は出来なかった。

調査範囲②では12ヶ所のグリッドから遺物が発見された（第４図）。その内容は小粒の黒耀石の原石類がほとんどで、明確に加工を施したものはない。またこれらの出土範囲は平面的・層位的にも限られており、大きく２ヶ所の範囲に収束された。これを新たに発見したジャコッパラ№15遺跡・ジャコッパラ№16遺跡として登録し、出土状況等から判断して、これら原石については、原産地からの搬入品として遺物に準ずる扱いとした。

調査範囲③における土層堆積状況については、他の調査範囲と異なり、安山岩の浮遊礫を含まない非常に良好な状況が認められ、16ヶ所開けた試掘グリッドのうち、750グリッドからは黒色腐植土層より剥片とみられる黒耀石製石器類が１点見つかった。また、その周辺において面的な調査を行なったところ、谷部にかかる斜面肩部より１基の陥し穴状遺構を発見した（第22図）。この陥し穴状遺構は、この下流にあるジャコッパラ№６遺跡の陥し穴群に関連するとみられ、これにより今回の調査範囲付近もジャコッパラ№６遺跡の範囲に含めてよいと考えられる。しかし、この遺構からの遺物の出土はなく、形態及び遺構構築のみられた土層から判断して、縄文時代に属する可能性を指摘できるのみである。

調査範囲④は、全体が緩やかに下る尾根状地形を呈しており、旧放牧地ということもあり植林が全体に及んでおらず、他の調査範囲に比べ地形の見通しは良かった。ここでは15ヶ所の試掘グリッドを調査したが、総体的に土層の堆積状況は良好だったものの、遺物は腐植土層が若干流れた様子を呈していた769グリッドから１点だけ黒耀石製剥片が、原位置性を欠く状態で発見されたのみである。

調査範囲⑤については、谷を挟んでジャコッパラ№１遺跡と隣接する尾根上ということから、この地点がジャコッパラ№１遺跡の範囲の広がりに含まれるかということが調査の課題となった。この結果、尾根上より陥し穴状遺構が１基発見され、この尾根付近にもジャコッパラ№１遺跡に関連する陥し穴群が分布する可能性が強くなった。しかし、この遺構からも年代決定につながる遺物の出土はみられず、遺構構築のみられた土層や遺構の形態から判断して、縄文時代に属する可能性を指摘出来るに過ぎない。なお、この陥し穴状遺構は、形態上ではジャコッパラ№１遺跡で発見されている陥し穴の一形態に類似している。

以上のように、今回の調査では、明確な遺構としての判断は難しいが、黒耀石原石類の集積遺跡としてジャコッパラ№15・№16遺跡を発見し、おおよその範囲を認定した。また、既知の遺跡であったジャコッパラ№６遺跡及びジャコッパラ№１遺跡の範囲の広がりを新たに確認することが出来た。なお、今

回の調査では表面採集による遺物は発見されなかった。

今回の調査範囲における基本土層については、各調査範囲ごとの試掘グリッドにおける分層内容を比較・綜合した上で、以下のように注記内容を決め、記録にあたった。なお、これらの層準について、1～5の各アラビア数字で大別した土層は、全ての調査範囲内において規則正しく間隙のない状況で累重するものではない。これについてはアルファベットで細別した土層についても同じである。しかし、調査した範囲では、これらの基準で分類した土層が逆転することは認められなかった。

全般的にみて共通する土層堆積の特徴としては、3層としたソフトローム層から、山体の崩落が原因とみられる多量の安山岩の転礫が混じる状況がほとんどで認められた。しかし、ローム層中にはこうした礫を全く含まない地点も数ヶ所認められ、このような地点からは陥し穴状遺構が発見されている。

【基本土層注記】

1層　黒色土　腐植土による表土層。

2a層　黒色土　土質は1層と同じであるが、若干しまりが強くなる。

2b層　暗褐色土　ローム粒子が混入するため、若干明るさが増す。粘性・しまりとも認められる。

3a層　明褐色ローム　いわゆるソフトローム。板状及び亜角礫の安山岩が多数入る。

3b層　褐色ローム　いわゆるソフトローム。色調は赤味が強く、粘性・しまりとも認められる。3a層と3c層の漸移層的な土層とみられる。堆積は薄く、安定していないことが多い。

3c層　褐色ローム　いわゆるソフトローム。黒色粒・赤色粒を含み、粘性・しまりとも認められる。土質はハードロームに近いが、比較的軟質である。ソフトロームからハードロームへの漸移層とみられる。

4a層　褐色ローム　いわゆるハードローム。上層に比べ硬質化し、黒色粒・赤色粒の他、細砂粒が多く含まれる。小豆大の風化礫も少量混じる。ソフトロームとの層界は不整合的な場合が多い。

4b層　褐色ローム　いわゆるハードローム。4a層より暗さと硬さが増し、細砂粒の混入の割合は少なくなることで粘性がやや増す。クラックが生じる。

4c層　褐色ローム　いわゆるハードローム。土質は4b層に似るが、色調は暗さを増す。クリームがかった斑状の火山砂（？）ブロックが混入する。

4d層　褐色ローム　多量の白色粒子が混入し、腐食礫起源の赤褐色のブロックが入る。粘性・しまりとも認められ、風化の進んだ礫が混入する場合が多い。

5a層　褐色ローム　安山岩起源の白色の砂粒を多数含む。やや硬質で粘性・しまりとも認められる。青灰色の腐食礫が混じる。

5b層　褐色ローム　5a層と同じ白色粒子および砂粒が多量に混入し、少量の赤色粒が混じる。5a層より粘性・しまりは弱くなる。

5c層　褐色ローム　白色粒子を多量に混じえた青灰色を呈する腐食礫層がレンズ状に貫入する。5a層・5b層より硬質になり、粘性・しまりとも認められる。

5d層　褐色ローム　上層に比べ白色粒子の混入は少なくなり、より硬質化する。この層でも腐食礫層がレンズ状に貫入する。

5e層　灰褐色ローム　白色粒子を多量に含み、粘性・しまりとも認められる。

2．各試掘グリッドの遺物出土状況

今回の分布予備調査では計87ヶ所の試掘グリッドを設定し、調査を行なった。そして、このうち14ヶ所のグリッドより遺物の出土が認められた（第17～20図）。これらは新たに発見されたジャコッパラ№15遺跡、ジャコッパラ№16遺跡、そして遺跡範囲確認を行なったジャコッパラ№6遺跡で確認された。ジャコッパラ№15・同№16遺跡において出土した遺物の大半は黒耀石の原石であり、米粒大～小豆大程度の小粒なものがほとんどで、大粒のものは数点しかみられなかった。石器類として確実に加工の施されているものも1点のみであり、いずれにせよ土器の出土がみられなかったことから、帰属時期は不明である。しかし、出土層位はローム層直上から黒色土層中であり、この状況から判断するならば、縄文時代以降に位置づけておくことが妥当と考えられる。

以下、その遺物の出土状況を中心に各グリッドの概要を述べる。

KRD723グリッド（ジャコッパラ№15遺跡）

黒耀石原石4点と石核1点が出土しており、出土層位は2b層下部から3a層上部にあたる。

KRD723Aグリッド（ジャコッパラ№15遺跡）

黒耀石原石6点が出土しており、出土層位は2b層下部から3a層上部にあたる。

KRD724グリッド（ジャコッパラ№15遺跡）

黒耀石原石3点が出土しており、出土層位は2b層下部から3a層上部にあたる。

KRD725グリッド（ジャコッパラ№15遺跡）

黒耀石原石16点が出土している。出土層位は2a層から2b層にわたるが、分布は2b層に集中する。

KRD730グリッド（ジャコッパラ№15遺跡）

黒耀石製原石1点のみの出土で、1層下部からの出土である。

KRD737グリッド（ジャコッパラ№16遺跡）

黒耀石原石2点が出土しており、出土層位は2b層である。

KRD739グリッド（ジャコッパラ№16遺跡）

黒耀石原石1点のみの出土で、2b層下部からの出土である。

KRD740グリッド（ジャコッパラ№16遺跡）

黒耀石原石3点が出土しており、出土層位は2b層下部から3a層上部にあたる。

KRD745グリッド（ジャコッパラ№16遺跡）

黒耀石原石1点のみの出土で、2b層中の出土である。

KRD747グリッド（ジャコッパラ№16遺跡）

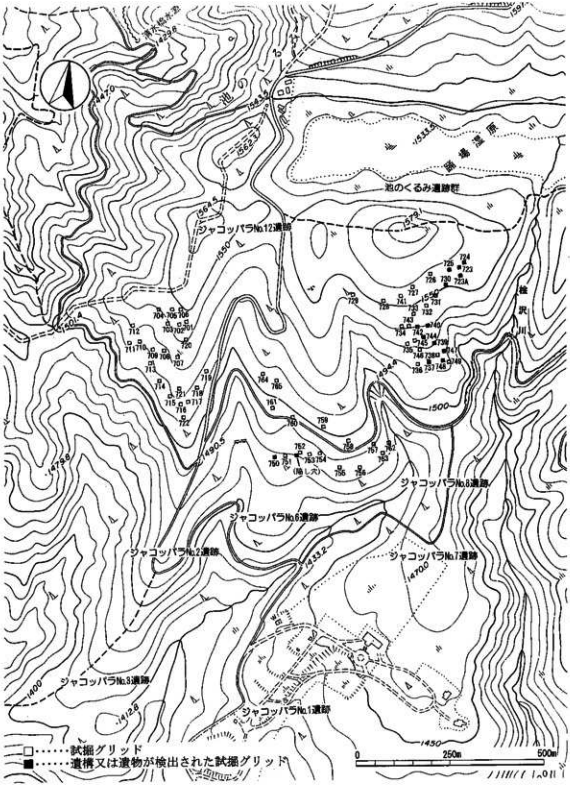
黒耀石原石1点のみの出土で、2b層中の出土である。

KRD750グリッド（ジャコッパラ№6遺跡）

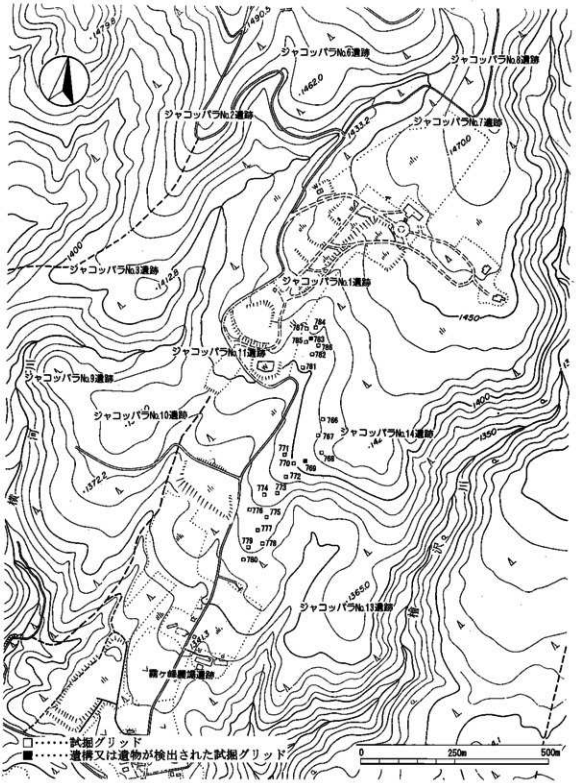
黒耀石製剥片1点のみの出土で、2a層中の出土である。

KRD769グリッド

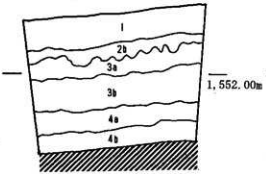
ローリングの痕跡のある黒耀石製剥片1点のみの出土で、2b層中の出土である。



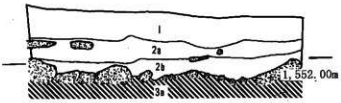
第４図　平成７年度分布予備調査試掘グリッド分布図（１）（調査範囲①～③）



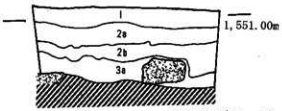
第５図　平成７年度分布予備調査試掘グリッド分布図（２）（調査範囲④・⑤）



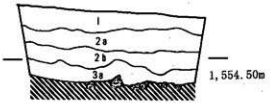
KRB701グリッド



KRB705グリッド

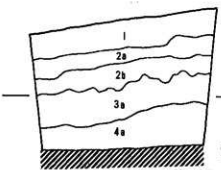


KRB702グリッド

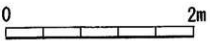


KRB706グリッド

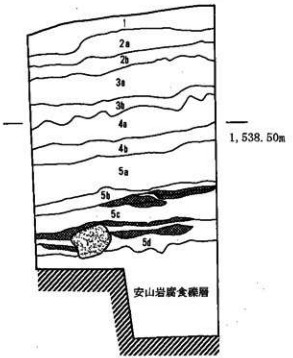
KRB703グリッド



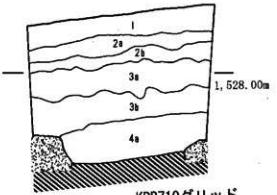
KRB704グリッド



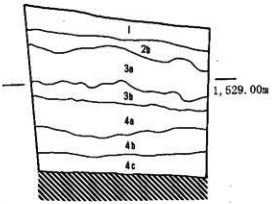
第6図　試掘グリッド土層断面図（1）



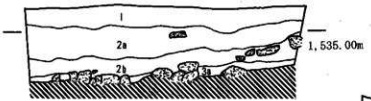
KRB707グリッド



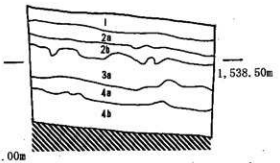
KRB710グリッド



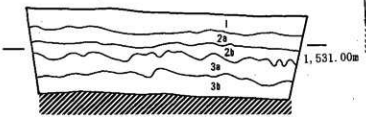
KRB711グリッド



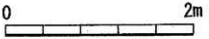
KRB708グリッド



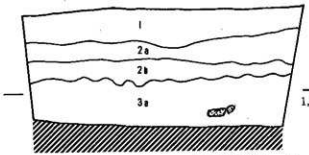
KRB712グリッド



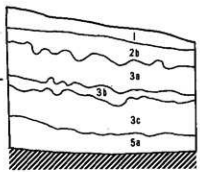
KRB709グリッド



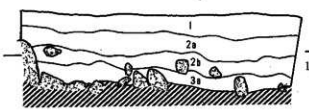
第7図　試掘グリッド土層断面図（2）



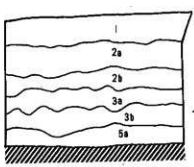
KRB713グリッド



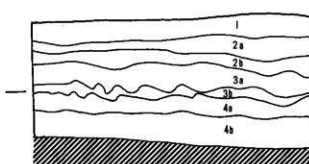
KRB716グリッド



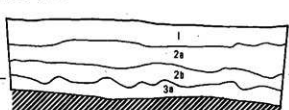
KRB714グリッド



KRB717グリッド

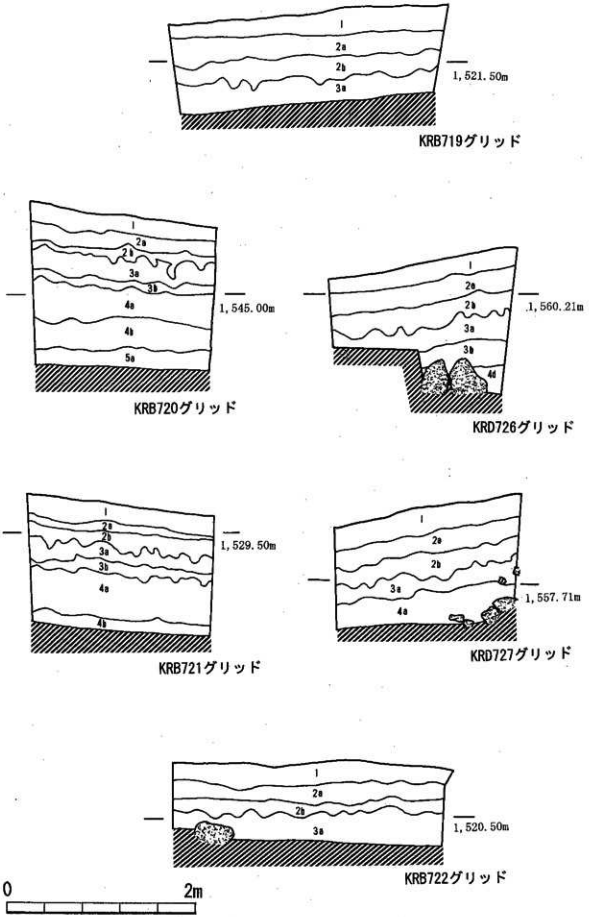


KRB715グリッド

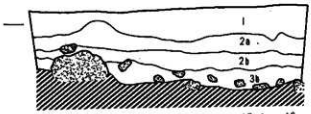


KRB718グリッド

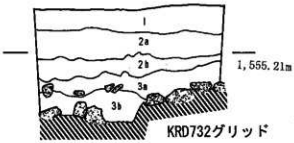
第８図　試掘グリッド土層断面図（３）



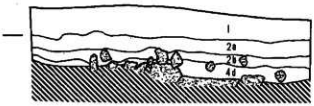
第9図　試掘グリッド土層断面図（4）



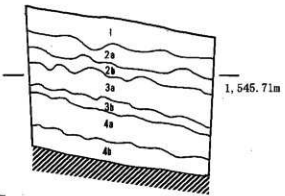
KRD728グリッド



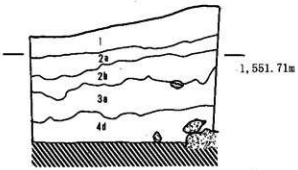
KRD732グリッド



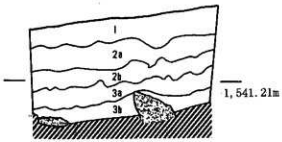
KRD729グリッド



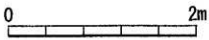
KRD733グリッド



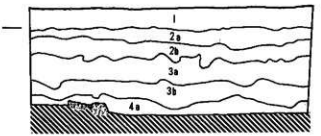
KRD731グリッド



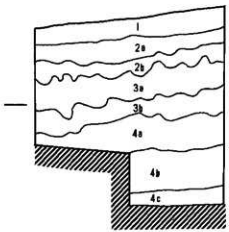
KRD734グリッド



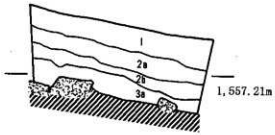
第１０図　試掘グリッド土層断面図（５）



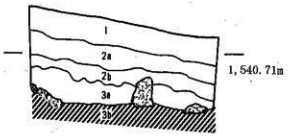
KRD735グリッド



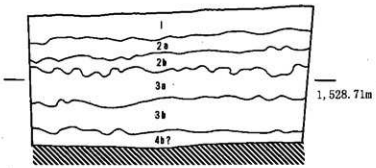
KRD736グリッド



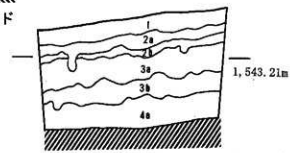
KRD741グリッド



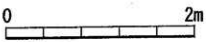
KRD742グリッド



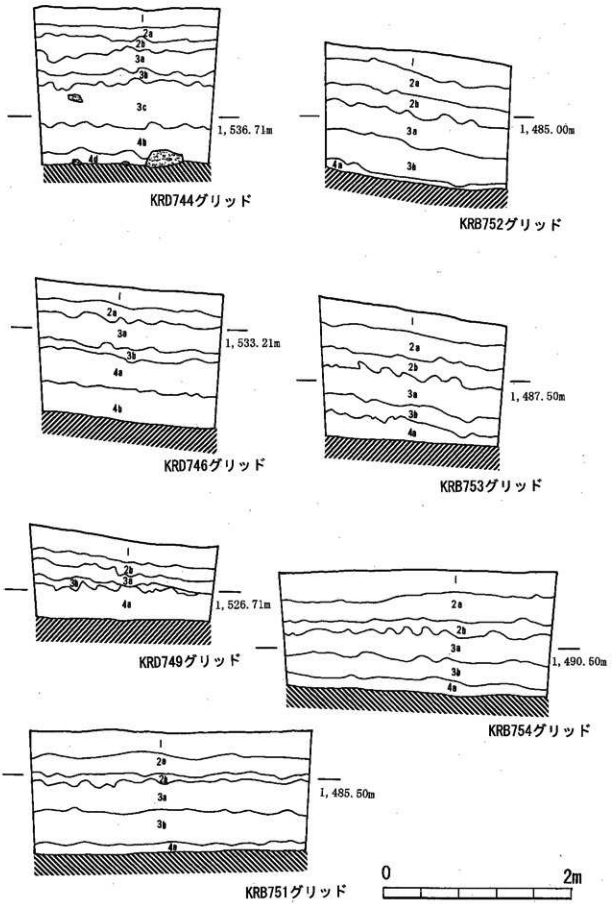
KRD738グリッド



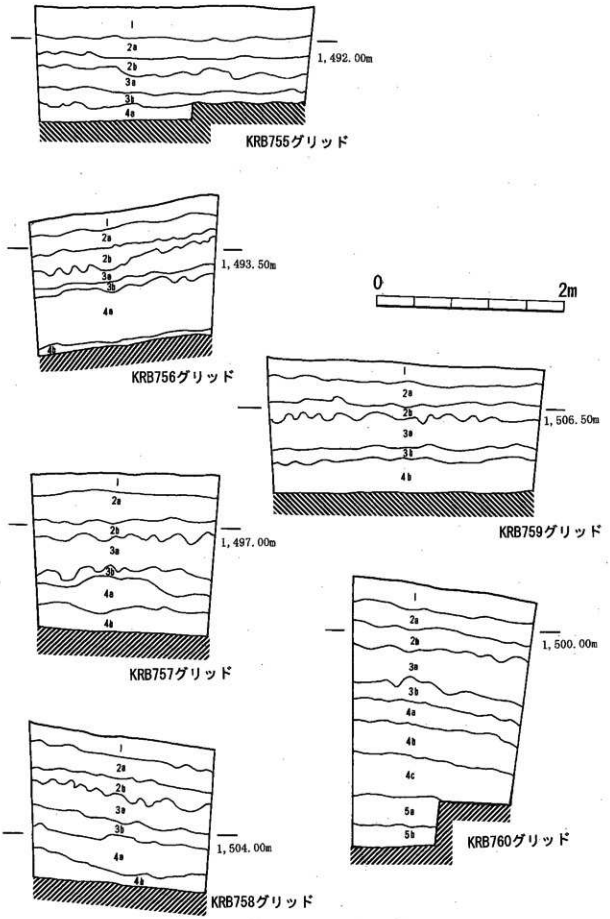
KRD743グリッド



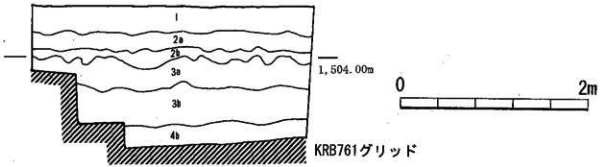
第１１図　試掘グリッド土層断面図（６）



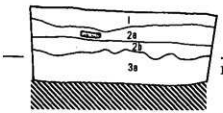
第１２図　試掘グリッド土層断面図（７）



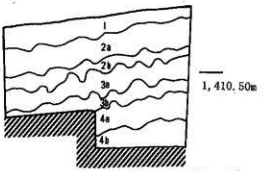
第１３図　試掘グリッド土層断面図（８）



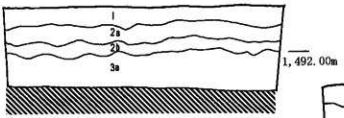
KRB761グリッド



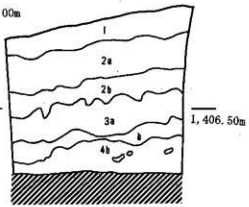
KRB762グリッド



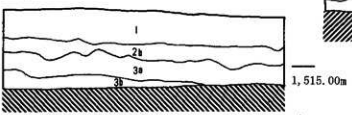
KRD766グリッド



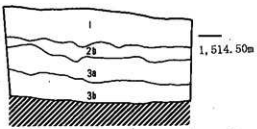
KRB763グリッド



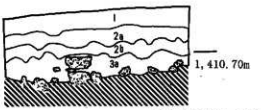
KRD767グリッド



KRB764グリッド

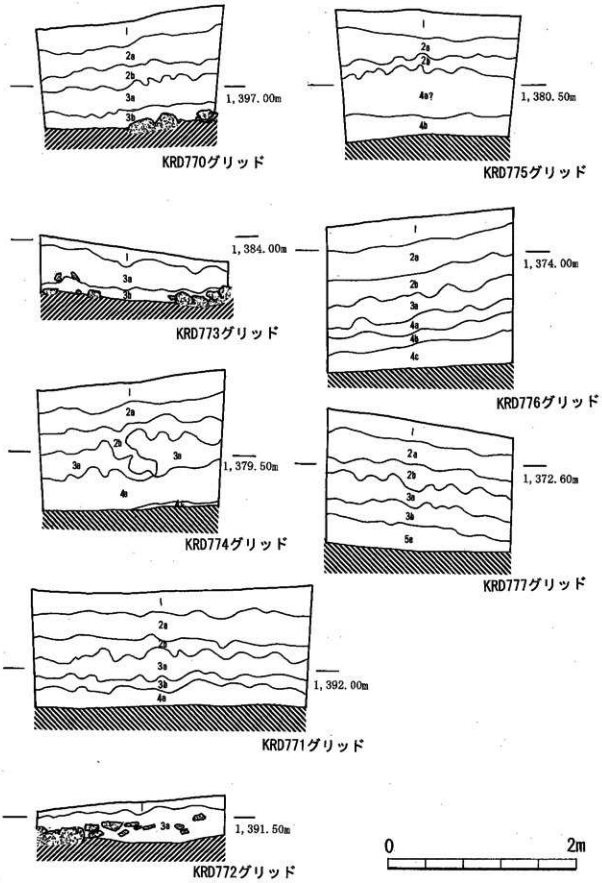


KRB765グリッド

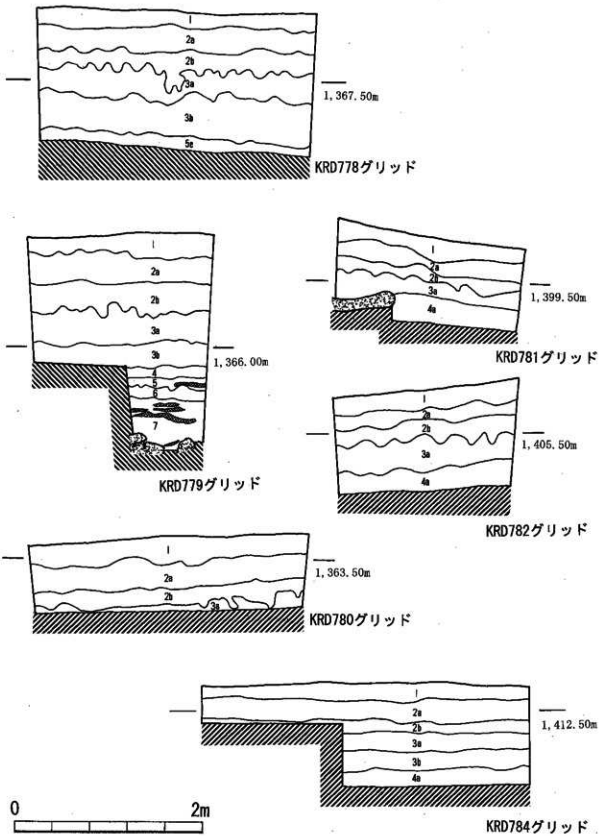


KRD768グリッド

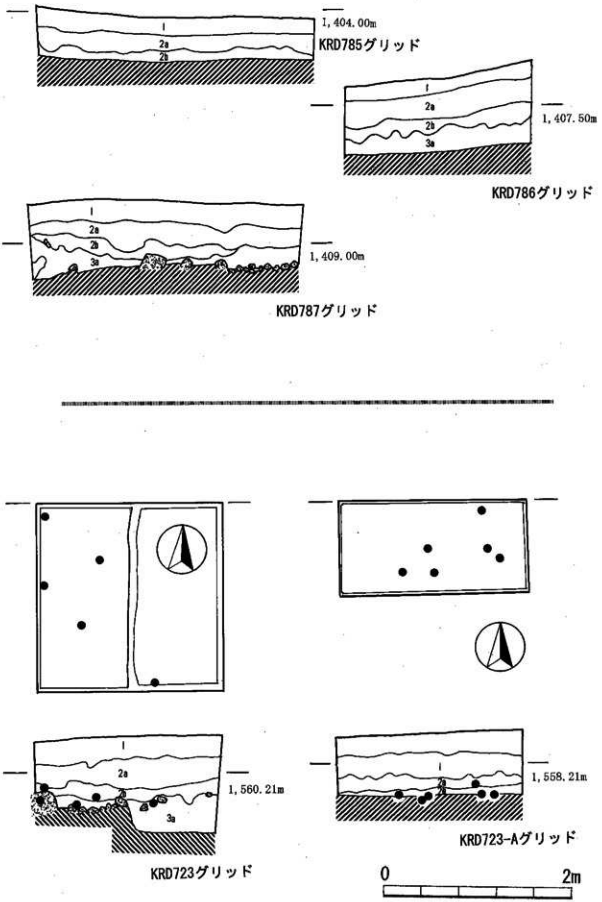
第１４図　試掘グリッド土層断面図（９）



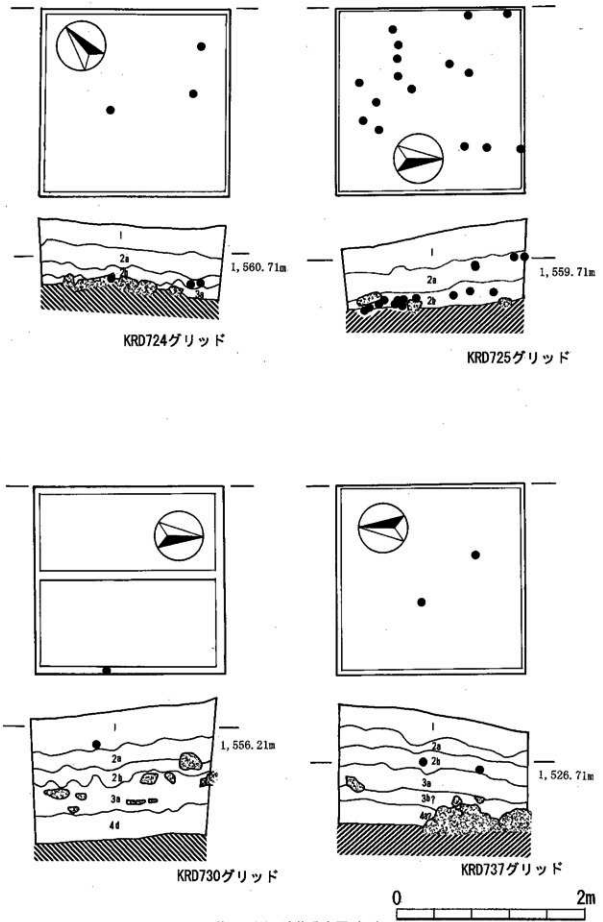
第１５図　試掘グリッド土層断面図（１０）



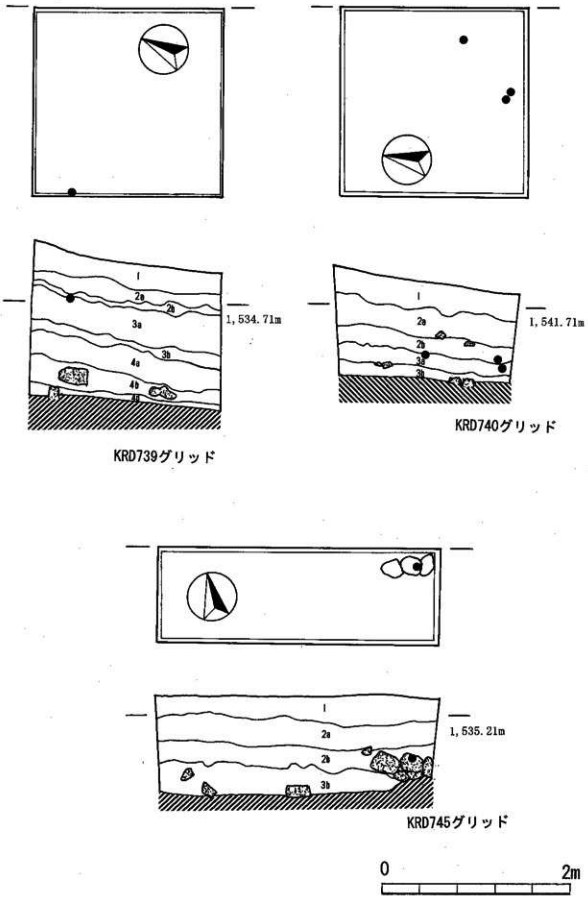
第１６図　試掘グリッド土層断面図（１１）



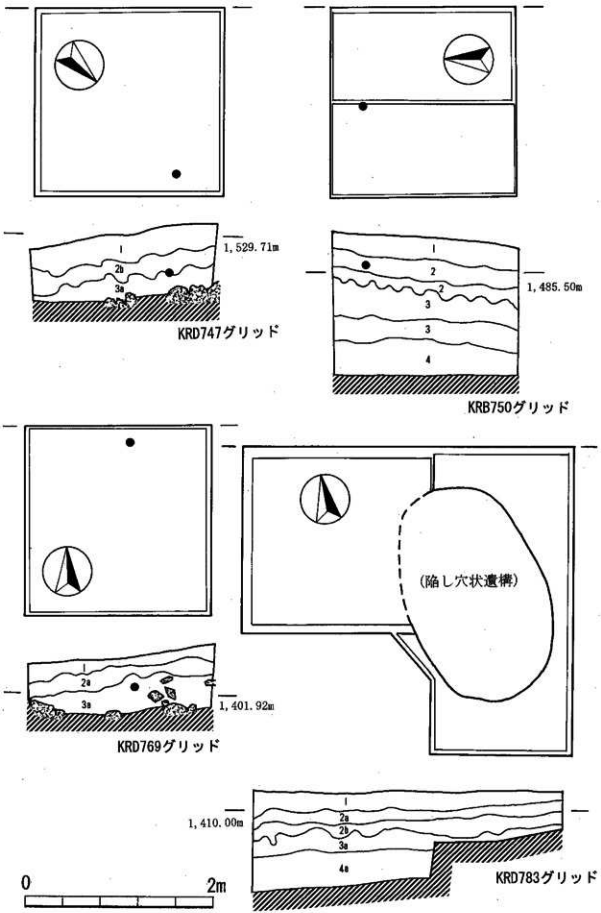
第１７図　試掘グリッド土層断面図（１２）・遺物分布図（１）


1
2a
1,560.71m
3a
KRD724グリッド
1
2a
2b
1,559.71m
KRD725グリッド
1
2a
2b
3a
4d
1,556.21m
KRD730グリッド
1
2a
2b
3a
3b
4d
1,526.71m
KRD737グリッド
0
2m

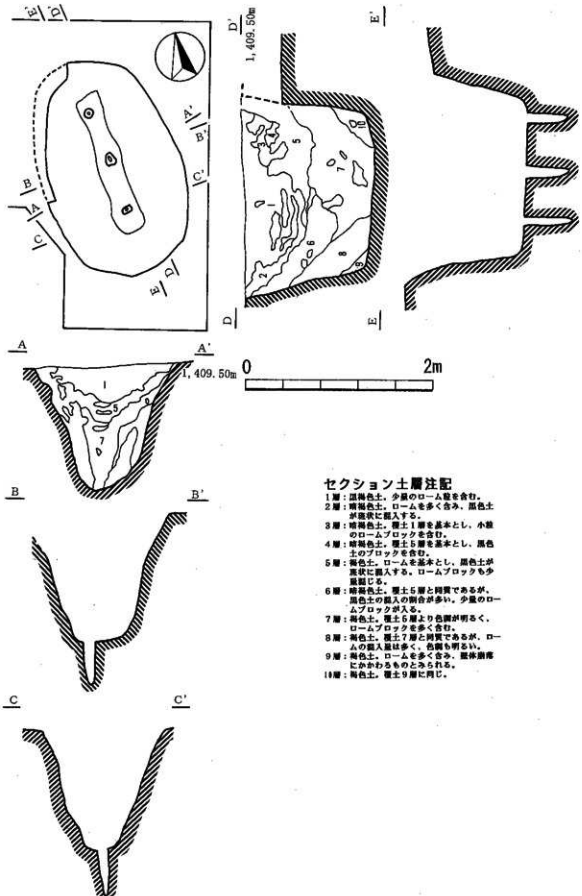
第１８図　遺物分布図（２）


1
2a
2b
3a
3b
4a
4b
1,534.71m
KRD739グリッド
1
2a
2b
3a
3b
1,541.71m
KRD740グリッド
1
2a
2b
3b
1,535.21m
KRD745グリッド
0
2m

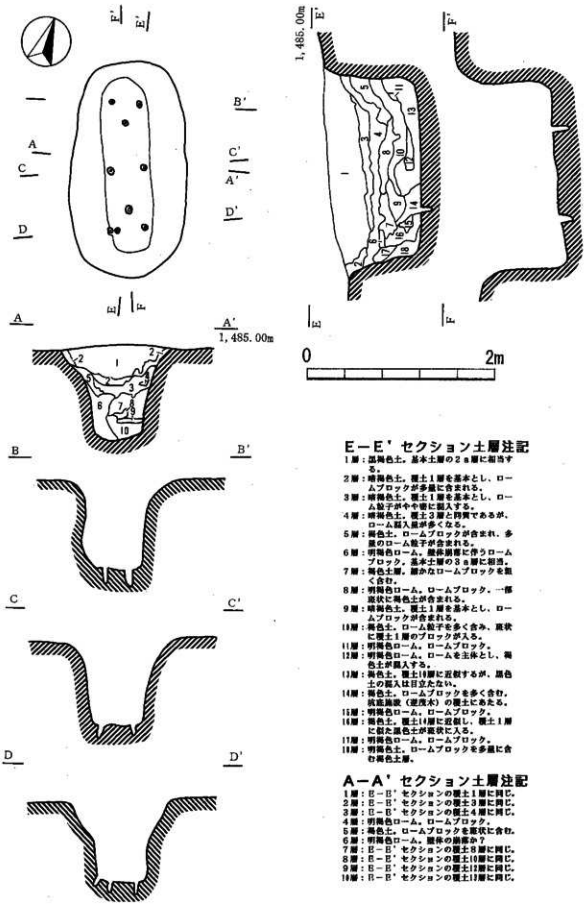
第１９図　遺物分布図（３）


1,529.71m
1
2b
3a
KRD747グリッド
1,485.50m
1
2
2
3
3
4
KRB750グリッド
(陥し穴状遺構)
1,401.92m
1
2a
3a
KRD769グリッド
1,410.00m
1
2a
2b
3a
4a
KRD783グリッド
0
2m

第２０図　遺物分布図（４）



第２１図　陥し穴状遺構実測図（ＫＲＤ783グリッド）



E－E′ セクション土層註記

1層：黒褐色土。基本土層の2ｓ層に相当する。
2層：暗褐色土。表土1層を基本とし、ロームブロックが多量に含まれる。
3層：暗褐色土。表土1層を基本とし、ローム粒子がやや密に混入する。
4層：暗褐色土。表土3層と同質であるが、ローム混入量が多くなる。
5層：褐色土。ロームブロックが含まれ、多量のローム粒子が含まれる。
6層：明褐色ローム。陥穽周囲に作りロームブロック。基本土層の3ｓ層に相当。
7層：褐色土層。細かなロームブロックを散く含む。
8層：明褐色ローム。ロームブロック。一部斑状に褐色土が含まれる。
9層：暗褐色土。表土1層を基本とし、ロームブロックが含まれる。
10層：褐色土。ローム粒子を多く含み、斑状に表土1層のブロックが入る。
11層：明褐色ローム。ロームブロック。
12層：明褐色ローム。ロームを主体とし、褐色土が混入する。
13層：褐色土。表土10層に近似するが、黒色土の混入は目立たない。
14層：褐色土。ロームブロックを多く含む。抗底施設（逆茂木）の掘土にあたる。
15層：明褐色ローム。ロームブロック。
16層：褐色土。表土11層に近似し、表土1層に似た黒色土が斑状に入る。
17層：明褐色ローム。ロームブロック。
18層：明褐色土。ロームブロックを多量に含む褐色土層。

A－A′ セクション土層註記

1層：E－E′ セクションの表土1層に同じ。
2層：E－E′ セクションの表土3層に同じ。
3層：E－E′ セクションの表土4層に同じ。
4層：明褐色ローム。ロームブロック。
5層：褐色土。ロームブロックを斑状に含む。
6層：明褐色ローム。陥穽の崩落か？
7層：E－E′ セクションの表土8層に同じ。
8層：E－E′ セクションの表土10層に同じ。
9層：E－E′ セクションの表土11層に同じ。
10層：E－E′ セクションの表土12層に同じ。

第２２図　陥し穴状遺構実測図（ジャコッパラNo.６遺跡）

Ⅳ　調査のまとめ

1．検出された遺構・遺物及び遺跡立地について

今年度の調査は、標高約1550m付近から1350m付近のＫＲＢ地区・ＫＲＤ地区が調査対象範囲となった。この付近については、先にも述べたように平成３年度から重点的に調査を行なってきた地点である。将来的に数件の大規模開発が計画されており、これら一連の分布調査で発見された遺跡のうち幾つかは既に緊急発掘調査が行なわれているところである。

そうした状況ではあるものの、具体的な調査が行なわれたことのない霧ヶ峰高原ジャコッパラ一帯において、平成６年度までに13ヶ所もの新たな遺跡が見つかっていることの意義は大きい。それ以前は霧ヶ峰の開墾が行なわれるようになってから発見された遺跡・遺跡群が知られていただけである。

和田峠・星ヶ塔などの黒耀石原産地を背後に控える霧ヶ峰高原は、麓の諏訪湖盆地における旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡・遺跡群への黒耀石の供給ルートに位置づけられることが注意されてきた。例えば諏訪市域では最も古い段階に位置づけられる旧石器時代の茶臼山遺跡においても、大形の黒耀石を搬入し、多量の石器製作を行なっている。このことは時期の降った上ノ平遺跡などでも同様な傾向が看取される。また、縄文時代では、霧ヶ峰から諏訪湖に向かって流れ出す角間川下流域において、縄文前期～後期にかけて多数の集落が営まれていた。穴場遺跡や唐沢遺跡、若宮遺跡では、多量の黒耀石が運び込まれ、石器原料としての集積・消費がなされている。

諏訪湖東岸地域におけるこれらの遺跡が、各時代を通して周辺地域にどのように関わりを保っていたか、今後の研究の進展を待つ必要がある。しかし、最近まで具体的な遺跡が未確認だった霧ヶ峰ジャコッパラ付近での遺跡の発見は、霧ヶ峰における当時の土地利用の様相を解明するだけでなく、黒耀石原産地とやや距離をおく諏訪湖東岸一帯の遺跡との間における黒耀石の流通の在り方を理解する上で重要な情報を提供しつつあるといえる。

過去の分布予備調査で発見され、発掘調査が行なわれた旧石器時代のジャコッパラ№８遺跡・ジャコッパラ№12遺跡では、近隣の原産地より黒耀石を運び入れ、石器製作を行なっていることが確認されている。特にジャコッパラ№12遺跡では、大規模とはいえないが、一定量の礫塊状原石を遺跡内に取り残している状況がわかり、黒曜石原産地周辺の旧石器時代遺跡における原石保有状況の一端を垣間見ることが出来た。これらの原石が更に山地を下り、流通されたものなのかどうかについては、今後の検討課題である。

一方、ジャコッパラにおける縄文時代遺跡では、調査により随所で土器・石器類の散布は確認されている。しかし、いずれも当時の土地利用の在り方を反映したものか、規模が小さく、短期間のキャンプ地的な痕跡しかみられず、また旧石器時代遺跡のように顕著な石器製作址も見つかっていない。おそらくはこの周辺で多く発見されている陥し穴（群）が暗示するように、土地利用の主体が狩猟地だったことを示しているのだろう。

今回の分布調査で発見されたジャコッパラ№15遺跡・ジャコッパラ№16遺跡では、黒耀石の原石がま

とまって発見され、複数の集中個所を形成していることが確認された。土器など年代を示す遺物はみられなかったものの、出土層位やこれらに伴う少数の石器類から判断して、縄文時代の所産である可能性が高い。なお、ここで見つかっている黒耀石原石の中には、非常に小粒で表面の発泡しているものが多数目立つ。これは、数十万年前の火山活動の際、噴火した溶岩が飛来して出来たといわれる黒耀石と同じ特徴である。しかし、ジャコッパラNo.15・同No.16遺跡から発見された原石類の中には、露頭付近の転石の特徴と同じものも見受けられ、前者とは出自の異なることを示している。

なお、過去のジャコッパラ遺跡群における分布調査でも同様な黒耀石集積遺構が発見されている。それはジャコッパラNo.5遺跡のＫＲＢ55グリッド例で、１点の剥片を伴って、多数の原石が集中して発見されたものである。出土層位がローム直上の黒色土層下部という点もジャコッパラNo.15・同No.16遺跡例と共通しており、注意される。この場合、周辺に調査を行なったが同様な分布状況は確認出来ず、結果として自然条件的な集積の要素は認められなかった。

判断の基準は明確にし得ないまでも、過去の周辺における分布調査の結果とも重ね合わせて考える限り、自然的な集積ではない公算が高く、仮説の域は出ないが、この地点へ他地から採取してきた原石を人為的に集積していた遺跡としての可能性が高いと思われる。そして、このジャコッパラNo.15・同No.16遺跡の位置は、霧ケ峰西南麓へ流れ出す檜沢川の上流部にあたり、この下流付近にある縄文遺跡への黒耀石の供給に関連していた可能性も指摘できよう。

ジャコッパラNo.15遺跡・同No.16遺跡はテラス状の台地に立地しており、今後のこの台地周辺における調査では、小規模なものと予測されるが生活地点としての痕跡、または搬入した黒耀石原石を消費した石器製作址が見つかる可能性を持っているものと考えられる。

このほか、霧ケ峰牧場の上部にあたるＫＲＤ地区の調査では、ジャコッパラNo.6遺跡、ジャコッパラNo.1遺跡に関連する陥し穴状遺構が2基見つかっている。これらの陥し穴状遺構からは、年代を示す遺物等は発見されなかった。しかし、遺構の掘り込み層位から判断して、構築は縄文時代に行なわれた可能性が高いと考えられる。また、このうちジャコッパラNo.6遺跡で見つかった陥し穴状遺構は、過去の調査で発見された6基の陥し穴状遺構群の坑底施設の在り方と異なっており、これが別のグループに属するものなのか、それとも年代差・機能差を示すものなのかは、今後の検討課題とする必要がある。

これら陥し穴の発見はジャコッパラNo.1遺跡・同No.6遺跡の範囲を確定するにあたっての重要な成果であったといえる。火山起源の尾根地形のため土層中に多量の礫塊が混じる霧ケ峰でも、これら陥し穴状遺構の発見された地点は、表土を含めて全く礫を含まない場所であり、立地の選択に共通性を見いだすことが出来る。

陥し穴群の構築には、狩猟対象となる獲物の行動パターンに基づき、ロケーションを決め、かつ組織的な狩猟集団を編成するなどの条件を整えてから、狩りを行なってきたものと見なされてきた。しかし、ジャコッパラ遺跡群での陥し穴群の在り方は、当時においてその立地を選ぶにあたり、最小限の労力で陥し穴を構築するのに適した場所が選択されてきたことを裏づけるものとして注意されよう。なお、現在までのジャコッパラ遺跡群の調査では、礫塊の多く混じる場所での陥し穴状遺構が発見された例はない。

報告書抄録

ふりがな	じゃこっぱら6
書名	ジャコッパラVI
副書名	平成7年度長野県黒耀石原産地遺跡分布調査概報 （諏訪市ジャコッパラ遺跡群遺跡分布予備調査4）
巻次	
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第34集
編著者名	田中　総・五味裕史
編集機関	諏訪市教育委員会
所在地	〒392　長野県諏訪市高島 1-22-30 TEL0266(52)4141
発行年月日	1996年　3月21日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ジャコッパラ遺跡群	諏訪市大字四賀（しが） 霧ヶ峰（きりがみね）	20,206		36°03′46″	138°10′00″	1995年5月30日～8月9日	試掘坑87か所	遺跡分布予備調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ジャコッパラ遺跡群	生産遺跡	旧石器時代	……	黒耀石製石器類	新たに2か所の遺跡を発見（ｼﾞｬｺｯﾊﾟﾗNo.15・No.16遺跡）
		縄文時代	陥し穴状遺構　2 黒耀石原石集中カ所　14	…… 黒耀石原石類ほか	

写真図版

1．723グリッド

2．724グリッド

写真図版

3．725グリッド

4．739グリッド

5．740グリッド

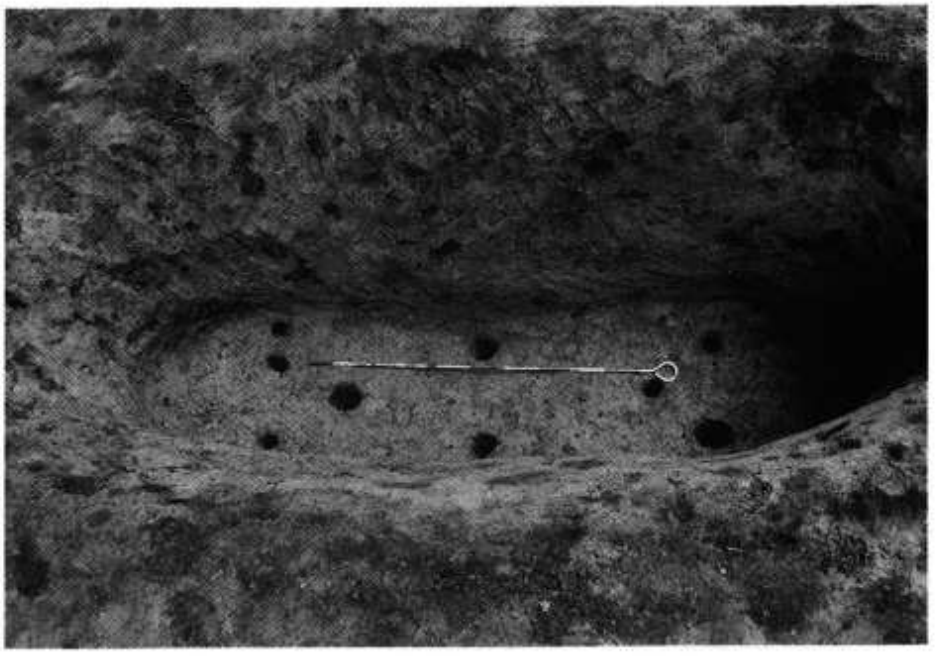
6．750グリッド

写真図版

7．769グリッド

8．760グリッド

9．陥し穴状遺構セクション（ジャコッパラNo.6遺跡）



10．陥し穴状遺構（ジャコッパラNo.6遺跡）

写真図版

11. 陥し穴状遺構セクション（７８３グリッド）

１２．陥し穴状遺構（７８３グリッド）

ジャコッパラ Ⅵ
－平成７年度長野県黒曜石原産地遺跡分布調査概報－

平成８年３月２１日

編　集　諏訪市高島　1－22－30
発　行　諏訪市教育委員会
印　刷　八千代印刷有限会社